

ご挨拶

文部科学省高等教育局医学教育課企画官 平子哲夫

皆さんこんにちは。文部科学省医学教育課企画官の平子でございます。

今日は、「歯学教育認証制度等の実施に関する調査研究」の公開シンポジウムの開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

ご出席の先生方におかれましては、平素より大学、大学病院を通じて、教育、研究そして診療にと、多くのご尽力をいただき、また優れた歯科医師の養成にご尽力いただいておりますことに、改めて敬意を表すと共に感謝を申し上げたいと思っております。

ご案内のとおり、歯科医師の養成については、歯科を取り巻く社会環境の変化を踏まえて、歯学教育の質を確保し、歯科医師国家試験、卒後歯科医師臨床研修へと続く一貫した教育、研修をおこなうことにより、質の高い優れた歯科医師を養成していくということが、重要であることは言うまでもありません。

最近の歯科医療を取り巻く情勢としても、歯科保健の面では、小児の齲蝕の罹患率の大幅な減少や 80 歳になっても自分の歯を 20 本以上保つ、いわゆる「8020」の達成者が増加するなどの成果があり、また医療面では周術期における口腔ケア管理が普及するなど、口腔と全身管理疾患との関わりに着目した知見が集積されてきているところであり、そういった大きな変化がある状況ではないかと思っております。

それに加えて、いわゆる団塊世代が 75 歳以上となる 2025 年に向けて、これまでの医療・介護は、地域完結型の地域包括ケアに変換しているところであり、高齢者歯科医療や在宅歯科医療などの新たな医療介護ニーズへの対応に向けて、歯科医師の資質の在り方自体についても考えて行く時ではないかというふうに思っております。

このような中で、歯学教育の分野別評価につきましては、平成 21 年 1 月に取り纏められた「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議第 1 次報告」の中で「歯学教育の質を保証するための第三者評価の仕組みの導入について検討」することが示されております。文部科学省でもこの事業においては、国際的にも先導的な役割を果たしうる評価制度の地盤を構築する、ということを目的にしているところであり、積極的に支援をしている状況でございます。

各歯科大学・歯学部が、大学の使命、あるいは建学の理念を踏まえて、養成する人材像を明確に持ち、それに応じた体系的な教育過程を構築し、自ら自己点検を行うことで、継続的な教育改革を実施していくことが極めて重要です。

この歯学教育評価制度は、各歯科大学・歯学部がその対応を適切に行っているかどうかや、それを第三者の目から見て確認し結果を公表することによって、歯学教育の質の確保への努力、という信頼性を担保するということが、大きなポイントになうろかと思っております。

我が国での歯学教育認証制度については、平成 25 年度から大阪歯科大学及び九州歯科大学がトライア

ル評価の受審大学となって、歯学教育認証制度の導入に向けた率先した取り組みが行われ、平成 26 年度には外部評価が実施されたと伺っております。本日はその情報についても、活発な議論が行われるということをお楽しみに期待しているところであります。

最後になりましたが、本事業責任者の東京医科歯科大学の荒木孝二先生をはじめとして、事業に関わる関係の皆さまに厚く御礼を申し上げます。

また、今後も各大学におかれましては、この歯学教育評価制度の構築に向けて、積極的な取り組みをぜひお願いしたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。